

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3671600124 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 よつ葉会 | | |
| 事業所名 | グループホーム はな | | |
| 所在地 | 徳島県阿波市市場町香美字秋葉本80番地1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成30年4月1日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階 | | |
| 訪問調査日 | 平成30年9月3日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設事業所と自由に交流を行なっている。事業所の玄関ベンチでは、近隣の方々との交流の場となっている。玄関先には、散歩や外気浴を楽しむことができる広場がある。また、広場の一角には花壇があり、利用者様と職員がともに、季節に応じた野菜や花づくりのための苗植え・種まき・水やり・草取り・花摘みを、楽しんでいます。花壇横には藤棚があり、ベンチを置き木陰での涼みや休憩スペースを作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者が明るい雰囲気の中で穏やかで、笑顔の多い生活を送ることができるよう支援している。近隣には、同一法人の運営する医療機関や他サービス事業所があり、24時間対応可能な状況を整備し、利用者や家族の安心に繋げている。事業所は、中学校の職場体験やボランティアを受入れている。地域交流スペースを設けるなど、地域の福祉避難所としての役割を担っている。年4回、写真入りの「はな新聞」を作成し、家族に利用者の様子を伝えるなど、家族と連携を図っている。利用者の意向を取り入れたおやつと一緒に調理したり、利用者一人ひとりのニーズに沿った外出支援を行ったり、職員は、チーム一丸となり寄り添う介護を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 年に一度 理念を確認し、掲示することで全ての職員が日々の業務の中で共有し振り返ることで、実践につなげている。 | 事業所では、地域密着型サービスの意義をふまえた理念を作成している。理念は、ホール内に大きく掲示するとともに、職員会議で共有し、具体的なケアの実践に繋げている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 散歩や外気浴、様々な行事(花見・敬老会・運動会・お誕生会・防災訓練など)を通して、近隣の中学生やボランティアの方々との交流を図っている。 | 事業所は、併設の他サービス事業所と協働し、運動会や敬老会などの行事を地域住民と行い、交流を深めている。また、ボランティアや実習生の受け入れを積極的に行うなど、地域とのつながりを大切にしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症に関する情報誌やパンフレット、ケア・マニュアルの基本など、誰もが見たり持ち帰ることができるよう設置したり、関わりや啓発に努めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 年に6回開催し、防災・防犯への取り組み、目標達成計画の実施状況の報告や認知症ケアに関する事例検討などにご意見いただき、サービス向上に活かしている。 | 2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者や家族、市担当者、民生委員などの出席を得ている。会議では、報告や情報交換を行い、出された意見は、サービスの質の向上に活かすよう努めている。しかし、出席者から多数の意見を得て、活発な意見交換の場となるまでには至っていない。 | 会議では、事業所からの報告や説明にとどまらず、出席者から多数の意見が出やすいような工夫を行うことにより、さらに活発な意見交換の場となるように期待する。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市担当者の方々に、各種届けや書類の提出、情報交換、防災に関するアドバイスをいただくなど、お伺いする機会を持ったり、ご相談しながら協力関係を築くよう努めている。 | 職員は、毎月、市の担当者を訪問して、事業所の取り組みや活動内容について、報告したり相談したりしている。職員は、担当者と密に連携をとり、事業所への理解を得られるように努めている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 研修やミーティングの機会を設け、心身の拘束について話し合い、理解し“拘束をしないケア”を全職員で、取り組んでいる。 | 事業所では、身体拘束に関するマニュアルを作成している。研修を開催したり、外部研修に積極的に参加したりして、言葉による拘束についても理解を深めるなど、人権を尊重した取り組みを実践している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 施設内研修をし、全職員が理解し、虐待をしない、虐待を見過ごさないという姿勢のもと、防止に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修を受け、参考資料を回覧などし、全職員が学ぶ機会をもっている。福祉事務所の方との連携を図り、必要に応じた支援を行っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用申し込み時、入院や退居の際には、利用者様、家族様の要望、医療やリスクに関すること、利用料、看取り、医療連携、家族との連携や対応方針、また報酬改定時などにも十分に説明し、同意をいただいている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見箱の設置や家族訪問時、家族会やアンケートの実施をしご意見伺う機会を設けている。気軽に話して頂けるよう配慮し、出された要望にお応えできるよう、職員間で話し合っている。 | 事業所では、日頃から利用者や家族が意向を表出しやすい雰囲気づくりに努めている。満足度アンケートを実施し、利用者や家族からの希望や出された意見は、職員会議で検討し、運営面に反映している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 年2回の個別面談や随時の面談、月1回はな会議で、困っていることや意見、提案を聞き反映させている。 | 事業所では、日頃の業務を通じて、職員の意向を把握するよう努めている。管理者は職員の声に耳を傾け、職員の働く意欲の向上や支援の質の確保に努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 状況に合わせた勤務体制を組み、柔軟な対応をしている。意見を出しやすい環境を作り、やりがいにつながるよう、また働きやすい環境整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人外研修の受講機会の確保、研修後には報告書・資料を回覧する体制があり、全職員のスキルアップに努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 外部研修を通じて、他の事業所との交流を図ることで、サービスの質の向上につながっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用者様が、不安や悩みを打ち明けやすい雰囲気をつくり、本人様の要望や思いを、優しい心で傾聴し、意向を尊重することで、安心していただけるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ゆったりとした雰囲気の中で、ご利用前の状況や困っている事、要望などをお聞きし、話し合いの中で信頼関係を築いている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人様や家族様の意向を聞き、必要としている支援を見極め、支援のあり方や必要なサービス情報を提案し、説明しながらより良いサービス利用となるよう対応に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者様を敬い、一人ひとりの人生史を職員は共有し、日々教えて頂く場面を多く持ち、会話の時間を多く持つことで、利用者様の気持ちに寄り添った関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 職員は家族様に利用者様の日頃の様子や言葉などを小まめに伝えたり、相談したりすることで協力が得られており、共に本人様を支えていく関係を築いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 併設施設の知人との交流、馴染みの方との葉書交換、電話、行きつけの理美容、住まわれていた地域周辺のドライブなど、馴染みの関係が途切れない支援に努めている。 | 事業所では、利用者が馴染みの理・美容院に行ったり、書道が続けたりすることを、家族の協力を得て支援している。職員は、利用者がこれまで培ってきた人間関係や地域社会との関係性の把握に努め、地域交流や外出支援に努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | テーブルの座席は柔軟な対応をし、食事やお茶の時間を楽しんで頂き、朝の体操やレクリエーション、外気浴や散歩などの楽しみや、語らいの輪に入って頂くなどし、関わり合う支援に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|
| | | | 自己評価 | 実践状況 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約が終了しても、その方に合ったサービス、通所や短期利用や再入居など、サービスの継続性が保たれるよう、相談や支援に努めている。 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の生活の関わりの中で、表情や言葉から本人様の思いを察知したり、家族様や職員間での情報交換をもとに、話し合いながら方向性を確認している。 | 職員は、日頃の関わりの中から、利用者の希望や意向を把握するように努めている。意思の表出が困難な利用者には、家族から情報を得たり、全職員で話し合ったりして意向をくみ取るよう努めている。 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 利用者申し込み時や利用開始前に生活環境を確認したり、生活歴や暮らしぶり、趣味・嗜好・これまでのサービス利用時の状況など、全職員が把握できるよう基本情報を作成している。 | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 生活の中で、一人ひとりの心身状態を日々観察し、出来る事・出来そうな事を職員間で情報共有し、実践して頂く。その時の状態を記録し、現状の把握に努めている。 | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ケアマネージャーを中心にカンファレンスを開き、本人様・家族様の意向や要望を反映し、日々の困難事項、安全で快適な生活が送れるよう、それぞれの意見やアイデアを取り入れ、無理のない介護計画を作成している。 | 事業所では、利用者や家族、主治医、職員で話しあい、介護計画を作成している。3か月に1回、介護計画の見直しを行うほか、モニタリングを行っている。利用者の自立支援に向けチームで支援をしている。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 生活状況日誌として個別に記入し、バイタル・食事量・水分量・排泄その日の心身状況や出来事などを、全職員が回覧し確認することで情報の共有を図り、計画の見直しに活かしている。 | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 併設施設での行事や余暇的活動での交流、必要に応じてではあるが、中間浴設備の利用など、利用者様のニーズに合わせ、柔軟な対応をしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域生活を継続し、利用者様が安心・安全な暮らしが送れるよう心掛けている。自衛消防隊との連携やボランティア・近隣の方々との交流を深めながら、支援している。 | | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者様や家族様が希望するかかりつけ医での受診をされている。健康管理及び緊急時対応(入院・他科受診・通院)は家族様の希望や同意を得ながら、本人様や家族様が納得した受診体制となっている。 | 事業所では、利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を、家族の協力を得て支援している。協力医療機関とは、24時間、連絡可能な体制を構築している。週2回、医師による訪問診療があり、利用者や家族の安心に繋がっている。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 医療連携体制の看護師を配置し、日頃の観察により状態変化を素早く察知し、報告・相談し、医師や医療関係との連携が密にとられる体制が確保されている。 | | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 環境に変化や病状による心身の変化に伴う、ストレスなどによるダメージを極力防ぐために、医療機関との情報交換を図り、家族様との相談、話し合いをするなどの関係づくりを行なっている。 | | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に重度化や終末期における対応に係る指針を家族様に説明し同意を得ている。利用者様の状態変化の際には、再度、医師・看護師・本人・家族との話し合いのもと、方針を決定し共有して支援に取り組んでいる。 | 契約時の段階で、本人や家族に重度化した場合や終末期の事業所の支援方針を説明し同意を得ている。利用者の心身状況に応じて、かかりつけ医や関係者と相談し、対応方針を共有しながら、関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変や事故発生時の対応を、施設内研修や勉強会(実技)や資料回覧、またミーティングで話し合い、確認し周知することで、適切に落ち着いた対応を身につける取り組みをしている。 | | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 地震・火災(昼・夜)・水害を想定し、訓練にて避難誘導方法を身につけ、消防署員立ち会いのもと近隣の方々の参加もあり、協力体制がある。市が主催の防災訓練にも参加し、地域との連携に取り組んでいる。 | 事業所は、災害時の対応マニュアルを整備している。年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を実施し、消防署や地域住民の参加を得ている。事業所は、福祉避難所に指定されており、地域との協力体制の構築に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|---|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 施設内研修を通し話し合い、意識の共有と向上を図っている。利用者様の気持ちに配慮し、プライバシーを損なわない、恥をかかさないさりげない声かけや対応をしている。 | 職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重した支援に努めている。自尊心を傷つけることのないよう、さりげない対応を心がけている。職員会議では、プライバシー保護について職員間で話し合い、サービスの実践に繋げている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 一人ひとりの意思を尊重し、生活の関わりの中で、希望が言いやすい雰囲気を作り、自己決定できるような声かけ(選択肢形式)をしたり、押し付けにならない支援をしている。 | | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりの生活ペースや趣味・特技・役割を把握し、今何がしたいのか、表情や態度で思いをくみ、その方のペースでの生活を確保するよう支援している。 | | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 季節に合った服装に配慮し、その日に着たいと思った服を自分で選択して頂き、鏡を見ての整髪、男性では髭を剃り、身だしなみができるよう、女性では時折お化粧を勧め、おしゃれ心表出のための支援をしている。 | | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の調理は、厨房が担っている。但し、懐かしいおやつ作りとして、ホットケーキ・大根もち・はったい粉などを一緒に作り、メニューから話を広げ、記憶への働きかけを行い、興味や楽しみに繋げている。 | 事業所では、利用者と職員が同じテーブルを囲み食事を楽しんでいる。嗜好調査の結果や利用者の意見をメニューに取り入れている。また、季節や懐かしさを感じることでできる手作りおやつを、職員と利用者が楽しみながら作っている。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事・水分摂取量は記録に残し、把握をしている。少ない方には、栄養補助食品や好みの物で代用を提供し、摂取量の確保をしている。 | | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔内確認を兼ね、口腔ケアを実施している。歯科衛生士の資格を持った職員の指導や助言、相談をしながら口腔の清潔保持に努めている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄パターンを知り、早めに声をかけ誘導することで失敗回数の軽減に繋がったり、ポータブルトイレ使用の方が施設トイレを使用できるようになるなど、個々の排泄の仕方を改善し、ご本人の自信に繋がった例がある。 | 職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するよう努めている。トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。介助の際には、さりげない言葉かけなどに配慮し、利用者の不安を軽減するための支援を行っている。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 朝の日課の体操に腸を刺激する運動や腹部マッサージなどを取り入れたり、散歩をするなどの便秘予防をしている。必要に応じ、個々に応じた服薬の調整、水分補給や食事でのコントロールをしている。 | | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | できる限り、本人様の希望に沿った入浴時間帯や回数を支援する体制がある。日により変化するため、声かけの仕方やタイミングを工夫したり、日をずらしたり、個々に添った支援をしている。 | 事業所では、利用者の希望や体調に応じて入浴を楽しむことができるよう支援している。同性介護を行うなど、プライバシーにも配慮している。入浴を拒む利用者には、声かけの工夫や気分転換を行い、気持ちよく入浴できるよう支援している。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人ひとりの生活習慣にあった、日中の過ごし方を工夫(短時間での昼寝・散歩・外気浴・趣味・レクへの参加など)し、生活リズムを整え、不穏の方には寄り添い、安心感を持って頂くことで、安眠に繋げている。 | | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 提供医療機関との連携をとり、看護師や全職員が個々に処方された薬を知り理解したうえで管理し、飲み込むまでの確認をしている。症状の変化に気付くよう、普段から意識し観察することを心掛けている。 | | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの楽しみごとや、好み、出来そうなことを、職員との関わりや本人様・家族様に伺いながら情報を得て、個々に合った役割や楽しみを持って頂き、気分転換や活気に繋げている。 | | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気の良い日には、外気浴や散歩を多く取り入れている。遠足や散歩ルートは自己選択とし、希望に沿った外出支援を行なっている。又、本人様の行きたい場所への外出(自宅・親類宅・買い物・散髪・外食など)は家族様に協力を得ながら支援している。 | 事業所では、利用者一人ひとりの希望に応じ、家族の協力を得て、お墓参り、買い物、散策などの外出支援を行っている。その人らしい暮らしを保ち、生き生きと暮らせるように支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 自分で管理できない方は、お小遣いをお預かりし、職員が金庫にて管理しているが、支払いができる方には外食や買い物時に自分で支払って頂くよう支援している。希望により、ご自分で所持されている方もいる。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 遠くなかなか訪問が難しい家族様には電話での通信支援を、葉書や手紙が書ける方には、やりとりできるよう支援し、安心感や喜びに繋がるよう配慮している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 花や観葉植物をあちらこちらに置いたり、壁面にはその月々の風物詩があり、季節を感じる場面を作っている。また、昼寝の際には、カーテンをして明かりを抑え、好みの音楽を流す際の音量や声の大きさにも気を付けている。 | 共用空間は、清掃が行き届き、明るく清潔な環境となっている。利用者の書道作品や季節を感じる飾り付けをしている。周囲の様子や人の気配を感じることでできる心地よい空間のなかで、利用者は会話を楽しんでいる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 数か所にソファを置き、独りで他人の目が届かない、静かに過ごさる場所があったり、あえて席は固定せず談話を楽しめる場所があり、和やかな雰囲気の中で、それぞれの方が心地よく過ごせるよう配慮している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族写真や本人様の作品、ご家庭で使い慣れ馴染みのある物があり、その方らしい落ち着いた空間となるよう工夫している。 | 事業所では、居室に利用者の馴染みの家具や写真を持ち込んでもらっている。利用者が安心して暮らすことができる環境づくりを支援している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 手すりを設置したり、室内の灯りやレイアウトにも配慮している。居室戸には自室とわかるよう大きく表示や目印を付け、避難やトイレまでの経路を表示するなど、不安や混乱、転倒を防ぐ環境づくりに努めている。 | | |